

揖斐農林事務所の普及活動状況

令和2年12月25日現在

今月の重点活動

■いちご 出荷始まる「華かがり栽培」に向けて

12月11日揖斐川町・池田町、12月17日大野町の各集荷場で出荷目揃え会が開催され、品質と規格を確認し本格的ないちごシーズンへと突入した。

揖斐地区では約3haのほ場で「美濃娘」、「濃姫」、「華かがり」の3品種を栽培している。特に、「華かがり」は、果実が大きい・形が良いなどの特徴を備え、「濃姫」の後継品種としての期待が高く、生産者2名が22aで栽培を行っている。農業普及課は、「華かがり」の安定した収量を確保できるように支援するとともに、市場ニーズにあった品物を供給出来るよう生産者や関係機関から栽培管理状況の聞き取り、生育状況の確認、今後の管理等の助言を行い揖斐地区の気候に適した栽培管理の確立に向け支援している。

今後も生産者、関係機関とともに揖斐ブランド確立に向け、「華かがり」を有望な品種として、引き続き支援を行う。



【華かがりの生育状況の様子】

売れるブランドづくり

■かき 袋掛け富有柿出荷目揃え会の開催

12月9日に、大野町かき振興会で、「富有」に袋掛けを行い糖度、着色向上等付加価値を付け販売される、「袋掛け富有柿」の出荷目揃え会が開催された。

出荷規格に合った柿は、最高級品の「果宝柿」、1階級下がった「紅富有柿」として贈答用で高値で販売される。

大野町かき振興会員から出荷規格等について詳しく説明があり、出荷に向け意識統一された。農業普及課からは、気象状況、柿の生育状況等情報提供し支援した。今年は小玉傾向で例年に比べ1階級小さい2Lサイズ中心となっているが、糖度が高く品質の良い柿として今年最後の出荷が行われる。



【目揃え会の様子】

■水稻採種 ハツシモ種子の生産物審査を実施

大野町米麦採種圃生産組合は、水稻ハツシモの種子を7経営体（2組織、5個人）で約8ha（4団地）生産している。

収穫された種子は、発芽率や雑草等の混入について生産物審査を行い、一定の基準を満たしているか確認を行う必要がある。

12月上旬に農業普及課では、種子生産者ごとのサンプルについて発芽試験を実施した。発芽試験では、サンプル全てにおいて基準である発芽率90%以上を満たしていることを確認した。

今後は、今年度の生産状況等を踏まえ、来年度の優良種子確保に向け支援を行っていく。



【発芽試験の様子】

■ 農業婦人クラブ 女性部の集い(寄せ植え)が開催される

12月4日に揖斐地域で活動する農業婦人クラブ員40名が参加し、「女性部の集い」が開催された。今回は地元園芸店が講師となり正月用の花飾りの寄せ植えが行われた。新型コロナウイルス感染予防対策として間隔をあけ実施され、婦人クラブ会長からは「今回の活動が、次年度以降の婦人クラブのさらなる発展につながっていくことを願っている」との挨拶があった。農業普及課は、研修会の段取り、当日の活動等支援を行った。



【寄せ植え研修会の様子】

多様な担い手の育成・確保

■ かき 小学生の柿の収穫体験・干し柿作りの授業が実施される

11月26日に大野北小学校3年生の生徒25人が参加し、大野町かき振興会員が講師となり、小学校校庭内に植えられている「富有」の収穫体験、また「蜂屋柿」を使用した干し柿づくりの学習が地元生産者、JA等の支援を受けて実施された。柿に関する授業は小学校の総合学習の一環として小学校3年生を対象に毎年実施されており、今年に入って5回目(最終回)の授業であった。講師からは、柿の収穫方法、渋柿づくりの手順等丁寧な説明があり、生徒は柿の収穫作業が楽しかった。初めての干し柿づくりに苦戦したが楽しかったとの感想が聴かれた。農業普及課からは、収穫体験作業、干し柿づくり作業の補助、柿についての質問に回答し支援を行った。



【柿の総合学習の様子】

■ 次世代人材投資事業 サポートチームによる新規就農者の現地指導

就農後の定着を図るため、農業次世代人材投資事業が開始され揖斐地域でも就農者が増加している。現在、当事業の活用者は揖斐郡内で13戸となっており、半年に一度、作物の生産量や販売額、経費など収支の状況を確認するとともに、改善点を指導している。

サポートチームによる現地訪問は年間2回実施されており、揖斐川町では12月3日に新規就農者を対象にサポートチーム(町、JA、農業普及課、農業振興課)によるほ場巡回を行い、就農状況の把握及び相談対応を行った。今回は野菜・水稲栽培農家を訪問し聞き取りを行い、営農安定に向け支援を実施した。



【現地指導の様子】

住みよい農村づくり

■ 金ごま 揖斐の新たな特産品づくり

管内では4年程前から4戸の生産者が金ごまを栽培しており、12月3日に栽培反省会が実施された。反省会では、新規でごまの栽培を志向する生産者が3戸参加し、活発な情報交換がなされた。農業普及課は栽培暦を作成し、来年度に向けた栽培指導等を行った。今後は生産者数が増え、生産量も増えることから、新たな地域特産物のひとつとして着目し、生育状況等確認しながら関係機関と連携し地域の特産品となるよう支援していく。



【栽培反省会の様子】